修士論文（要旨）
2014 年 1 月

高校英語＜リーディング＞教科書における異文化理解題材の検証
―対象・内容・程度の視点から―

指導　森住　衛　教授

言語教育研究科
英語教育専攻
211J3951
金　徳誠

目　　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　1. 立脚点　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　2. 問題の所在　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　3. 目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　4. 方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第１章　理論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　第１節　高校英語教育と異文化理解の関係　・・・・・・・・・・・・・・ 4
　1. 異文化理解の捉え方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　2. 高校英語教育における異文化理解の目標　・・・・・・・・・・・・・ 6
　第２節　＜リーディング＞教科書と異文化理解題材のあり方　・・・・・・・・・・ 8
　1. 教科書における異文化理解題材の役割　・・・・・・・・・・・・・・ 8
　2. ＜リーディング＞教科書における異文化理解題材の視点　・・・・・・・・ 12

第２章　実態　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
　第１節　実態調査の手順　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
　1. 異文化理解題材の判別　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
　2. ３つの視点の判別基準　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
　第２節　異文化理解題材の実態　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
　1. 対象　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
　2. 内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
　3. 程度　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

第３章　分析・考察　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
　第１節　３つの視点からの分析・考察　・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
　1. 対象　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
　2. 内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
　3. 程度　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
　第２節　その他の留意すべき分析・考察　・・・・・・・・・・・・・・・ 31
　1. 「内なる異文化」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
　2. 「隣文化」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
　1. まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
　2. 応用性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
　3. 今後の課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

注釈　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ
参考文献等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅲ
謝辞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅷ
資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ i

要　　旨

本研究は、高校英語＜リーディング＞教科書における異文化理解題材を、対象、内容、程度の視点から検証するものである。

本研究の立脚点は、3 つである。第 1 は、英語教育における異文化理解は、人格の陶冶と人類の恒久平和へと通ずる最良の糧となるべきであるということである(森住，2008)。古今東西、差別や偏見による争いは絶えない。争いの原因は、他者に対する理解、つまり異文化理解の欠如ないし不足に他ならない。今後無益な血を流さぬためにも、外国語(英語)教育における異文化理解の役割は大きいのである。第 2 は、英語教科書における異文化理解題材は、生徒が複眼的な思考を築くための礎となるべきである。異文化理解を行うために重要なのは、英語教科書における題材である。教科書で出会う文化のほとんどは、今まで見聞きした以上のものが含まれるからである。英語教科書における異文化理解題材は、異文化に対して適切な態度を育む教養的なものであることが望まれる。第 3 は、読むことで深めた異文化に対する理解は、「国際化」社会を生きる生徒にとって人生の標となるということである。言うまでもなく、異文化を直接観察し触れることができれば理解はより深まる。しかし、学校教育の範疇では制限がある。他の技能も重要であるが、古来より人は読むことで知識を得て、人生の糧としてきたことを考えると、＜リーディング＞教科書ほど異文化理解を深めるのに適したものはないのである(森住，1995)。

上記の立脚点に沿って、問題の所在も 3 点ある。

1 点目は、英語教育における異文化理解に対する観点が不明瞭であり、その役割を果たしきれていないことである。異文化理解とは、「絶対的な自己中心の発想から、多様で相対的な世界の認識への脱皮を促すものでなければならない」のである(大谷，2007:141)。2 点目は、英語教科書における異文化理解題材は、切り口や視点が大切であるが、そのような検討が十分でないことである。題材は、「量的側面に加え、言うなれば、その質的側面、すなわち、個々の異文化題材を扱う視点の検討が不可欠」なのである(石川，1998:43)。3 点目は、＜リーディング＞教科書で深めるべき異文化理解題材に、踏み込んだ内容のものが少ないということである。踏み込んだ内容とは、「極めて embarrassing な問題」のことであり、そのような内容を含んだ題材が異文化理解の最良の素材である(中村 1989:199)。異文化理解題材において浅い問題ばかり扱われては、生徒に「間違った」観点を与えることにつながるのである。

本研究は上記のような問題に対処するために、以下の 3 つを研究の目的とした。

(1) 英語教育の異文化理解の役割及び検定教科書における異文化理解題材のあり方を再考する。

(2) 高校＜リーディング＞教科書に現れる異文化理解題材に対して、「対象」、「内容」、「程度」の視点から実態を調査する。

(3) 高校＜リーディング＞教科書における異文化理解題材について分析・考察する。

上記の目的を達成する為に、本論の構成を 3 章立てとした。第 1 章では、理論的枠組みについて述べる。文化及び異文化理解の捉え方を踏まえて、英語教育において異文化理解、及び英語の検定教科書における異文化理解題材の役割を考える。第 2 章では、異文化理解題材の実態を調査する。高校英語＜リーディング＞教科書の異文化理解題材に関して対象、

内容、程度の 3 つの視点から実態調査を行う。第 3 章では、調査した実態をもとに、対象・内容・程度に関してそれぞれ分析・考察を行う。そして総合的に＜リーディング＞教科書を分析し、補うべきものをいくつか言及し、本論をまとめる。

調査の対象である教科書は、高校英語＜リーディング＞の検定済教科書(2012〈平成 24〉年度版)28 種類中 13 種類とした。そして、その中の本課(150 課)を研究対象とした。＜リーディング＞の教科書は 15 社 28 種あり、今回の調査では各社の上位レベルの教科書を使用する。理由としては、異文化理解題材の中身を検証するのには、ある程度の文の長さが必要と判断したためである。

＜リーディング＞教科書における異文化理解題材について、3 つの視点から導きだした結論は、以下のようになる。

「対象」に関しては、戦前、戦後のものに比べると多様性があった。しかし、依然と英米重視の傾向は強く、＜リーディング＞教科書の異文化理解題材の半数に、英米文化が扱われていた。対象を均等に扱うことが今後の教科書で求められる。

「内容」に関しては、風俗習慣に関するものが多く扱われていた。異文化を理解するのに適した内容であるため当然の結果とも取れる。しかし、異文化理解に必要な内容は風俗習慣のみではなく、歴史や価値観の違いのみを扱えば良いものでもない。多様な内容でもって異文化と出会う機会を与えることが必要である。

「程度」に関しては、課の本文全体としては、異文化に踏み込んだ内容として扱われるが、国や地域の個々の文化に焦点を当てると、浅い扱いの題材が多かった。異文化に対する単なる情報程度では、異文化の扱いが形骸化する危険がある。異文化の要因、つまり“Why”に迫る題材が、異文化理解には不可欠である。

本研究の異文化理解題材に関する研究は、数ある視点の中のわずか 3 つである。しかし、その 3 つの視点からでも、異文化理解へと通じるものがあることが確認できた。生徒が、実際に異文化理解を行う場においては、立ちはだかる大きな壁が存在する。外国語(英語)教科書は、その壁を「正しく」開くための鍵を与える先導者であり、今日の社会において、その役割が重大であることを、本研究を通じて改めて確認できた。

参考文献

石川慎一郎（1998）「英語教育における言語相対主義の視点」 『言語文化学会論集』10，言語文化学会.

江利川春雄（1989）「真の異文化理解をめざした題材論の確立のために」 *Kobe English Language Teaching: KELT*, 5，神戸大学大学院教育学研究科英語教育研究会.

――――――（2008）『日本人は英語をどう学んできたか―英語教育の社会文化史―』 研究社.

大谷泰照（2007）『日本人にとって英語とは何か―異文化理解のあり方を問う―』 大修館書店.

倉地暁美（1992）『対話からの異文化理解』 勁草書房.

塩澤正（2010）「言語と文化」 塩澤正・吉川寛・石川有香 編著 『英語教育と文化―異文化間コミュニケーション能力の養成―』 大修館書店.

田中克彦（1993）『ことばのエコロジー 言語・民族・「国際化」』 農山漁村文化協会.

當作靖彦・中野佳代子 監修（2012）『外国語学習のめやす』 国際文化フォーラム.

鳥飼玖美子（2011）『国際共通語としての英語』 講談社現代新書.

中村敬（1989）『英語はどんな言語か』 三省堂.

中村敬・峯村勝（2004）『幻の英語教材―英語教科書、その政治性と題材論』 三元社.

初瀬龍平（1985）『内なる国際化』 三嶺書房.

服部孝彦（1994）「国際理解のための英語教育」 『英語教育』4 月号，大修館書店.

本名信行 他編著（2005）『異文化理解とコミュニケーション 1―ことばと文化―』(第 2 版) 三修社.

森住衛（1987）「教室における＜文化＞の扱い」 中村敬、森住衛 『英語教育と文化』（英語教育指導ライブラリー2)，三省堂.

――――（1992a）「英語教育題材論(5)，(6)」 『英語教育』8, 9 月号 大修館書店.

――――――（1992b）「異文化に接する正しい態度を育てる―自己批判的英語教師異文化観論―」 『英語教育』4 月号，大修館書店.

――――――（1995）「異文化理解とリーディング教材」 『英語教育』1 月号，大修館書店.

――――――（1998）「学校教育における＜国際化＞の現状と課題」 『中学広場』158，大阪府公立中学校教育研究会.

――――――（2008）「中・高英語教育の来し方・行く末―戦後 60 年の教育過程と学習指導要領の総括の試み―」 『桜美林シナジー』6，桜美林大学大学院国際学研究科.

米山朝二（1993）「リーディングの指導に適した教科書はどうあるべきか」 『英語教育』2 月増刊号，大修館書店.

Chastatin, K.（1988）*Developing Second-Language Skills: Theory and Practice*, 3rd ed. Harcourt Brace Jovanovich.

Pusch, M. D., ed.（1979）*Multicultural Education: A Cross-Cultural Training Approach*, Intercultural Press.

Stern, H. H.（1992）*Issues and Options in Language Teaching,* Oxford University Press.